

## 地域経営（自治）

### 「環境と調和する自立した社会を目指して」

※〈 〉内は、「決算事項別明細書」  
の該当ページを表しています。

#### （１） 持続可能な地域社会づくり

##### ① まちににぎわいを取り戻す（メモリアル事業）

〈99 ページ〉

###### ○ 間宮海峡発見 200 年記念事業

###### ・ 間宮林蔵展

期間 平成 21 年 6 月 20 日～10 月 18 日

場所 北方記念館

入場者数 18,701 人

###### ・ 北海道地域創造フォーラム

期間 平成 21 年 7 月 18 日～7 月 19 日

場所 稚内総合文化センター

参加者数 300 人

###### ・ 間宮海峡発見 200 年歴史シンポジウム

期間 平成 21 年 9 月 5 日

場所 稚内総合文化センター

参加者数 80 人

###### ・ 間宮海峡を目指した冒険家フォーラム

期間 平成 21 年 10 月 10 日

場所 稚内総合文化センター

参加者数 80 人

###### ・ 林蔵ウォーク in わっかぬい

期間 平成 21 年 7 月 3 日、7 月 26 日、9 月 26 日（3 回実施）

場所 市内一円

参加者数 212 人

###### ・ 間宮海峡発見 200 年祭・フィナーレシンポジウム

期間 平成 21 年 11 月 14 日

場所 稚内総合文化センター

参加者数 60 人

○ 稚内空港開港 50 周年記念事業

- ・ 『稚内空港 2200m 滑走路供用開始を祝う集い』

期間 平成 21 年 11 月 19 日

場所 稚内全日空ホテル

参加者数 40 人

- ・ 稚内空港パネル展

期間 平成 21 年 11 月 20 日～11 月 23 日

場所 稚内副港市場港ギャラリー

来場者数 1,300 人

○ 稚内市体育協会創立 50 周年記念事業費補助事業

- ・ プロ野球イースタンリーグ公式戦（日本ハムファイターズ VS 読売巨人軍）

期間 平成 21 年 8 月 8 日

場所 大沼球場

来場者数 3,800 人

- ・ バasketボールチーム「レラカムイ北海道」ホームゲーム（トヨタ自動車アルバルク VS レラカムイ北海道）

期間 平成 21 年 10 月 31 日～11 月 1 日

場所 総合体育館

来場者数 2,600 人

○ 南中ソーラン祭開催事業費補助事業

- ・ 『南中ソーラン』全国交流祭 in 稚内

期間 平成 21 年 8 月 22 日

場所 富士見球技場

参加者数 5,000 人（うち踊り手 32 チーム、1,700 人）

## ② 人と自然が共生した環境社会の実現

〈91・97・125 ページ〉

○ 稚内市環境基本計画の推進

- ・ 計画期間 平成 18 年度～平成 27 年度
- ・ 実施体制 庁内推進会議(庁内関係部局により構成)

※ 平成 21 年度の活動状況

庁内における環境施策の実施状況とりまとめ

稚内市環境基本計画年次報告書の作成

○ 稚内市地球温暖化対策実行計画の推進

- ・ 計画期間 平成 18 年度～平成 22 年度
- ・ 計画目標 平成 16 年度における二酸化炭素排出量を基準とし、平成 18 年度から平成 22 年度までの 5 年間で二酸化炭素排出量を 6%削減

※ 平成 21 年度の活動状況

各課に配置している温暖化防止推進員が点検シートを毎月報告

○ 環境・エネルギーセミナーの開催

- ・ 北海道都市問題会議

テーマ 「サステナブルな環境地域圏の創造 ～ 日本最北端からのグリーンニューディール」

開催日 平成 21 年 10 月 22 日、23 日

主催 稚内市、北海道市長会、北海道都市地域学会

- ・ 「新エネ百選」記念セミナーin 北海道 (Part2) ～人と地球にやさしい新エネルギーの導入～

開催日 平成 21 年 12 月 21 日

主催 稚内市、経済産業省北海道経済産業局、  
独立行政法人新エネルギー・産業技術開発機構 (NEDO)

- ・ 産業創出！バイオマス地域説明会 稚内地域バイオマス説明会

開催日 平成 22 年 2 月 12 日

主催 北海道バイオマス発見活用協議会

協賛 稚内市

後援 経済産業省北海道経済産業局、国土交通省北海道開発局、環境省北海道地方環境事務所、  
独立行政法人新エネルギー・産業技術開発機構 (NEDO)

## (2) パートナーシップによるまちづくり

### ① 市民の声を活かした開かれた市政

〈89・95 ページ〉

○ ホームページ維持管理事業

- ・ 新鮮な情報の発信に努めた。
- ・ 平成 19 年度からホームページのバナー広告掲載を開始し、収入確保に努めた。

※ 平成 21 年度実績

アクセス件数 329,756 件

各課ページ更新件数 2,851 件

バナー広告掲載数 12 枠

○ 「広報わっかない」の発行

- ・ 年 12 回発行(全戸配付)
- ・ 広報紙作成DTPシステムにより作成

- TV広報「稚内市民ニュース」(STV)の放映
  - ・ 年 52 回放映(毎週土曜日) 年平均視聴率 7.4%
- 「FM わっかない」の活用(ラジオ広報)
  - ・ 「ハートフルわっかない」 平日 1 回、土日 2 回放送
  - ・ 「元気ハツラツわっかない」 週1回放送
  - ・ 「市政ふれあい通信」 本放送月 1 回、再放送月 1 回 (ウェブラジオ配信)
  - ・ 「学びふるさと再発見」 本放送週 1 回、再放送週 1 回 (ウェブラジオ配信)

## ② コミュニティ活動の促進

〈93 ページ〉

- まちづくり委員会の活動状況

まちづくり委員会	主たる活動内容
天北地区	アイスクヤンドル事業の実施
恵北・増幌地区	北海道千本桜運動植樹、大型酪農視察研修会、花壇の整備、住宅造成地排水調査立会い、排水溝補修要請書の提出、懇談会の開催
東第一地区	歩道の花壇化事業の実施
声問地区	花いっぱい運動の実施、声問公園の整備に係る現地視察
西浜地区	カエルロード交通安全推進事業、凧作り凧揚げ大会の開催、花見会・新年会の開催、アイスクヤンドル事業の実施
宗谷地区	宗谷路クリーン大作戦の実施、スノーキャンドル・アイスクヤンドルフェスティバルの開催
大黒・末広地区	JR 跡地に係る事業計画書の提出、ハロウィン「夢灯り」の開催、アイスクヤンドルの開催
萩見・朝日地区	コミュニティ助成によるイベント用備品の整備
富岡・はまなす地区	アイスクヤンドル・スノーキャンドル事業の実施、花いっぱい運動の実施
港地区	港小学校「港小祭り」への参加、給食会への参加、港地区まちコミニユース第2号の発行
宝来地区	花いっぱい運動の実施、パークゴルフ交流会、アイスクヤンドル・子供スベリ台の開催、まちづくり出前講座の実施、宝来地区いきいき健康講座の実施
北地区	交通安全運動街頭旗波作戦の実施、花いっぱい運動の実施、パークゴルフ大会、アイスクヤンドル事業の実施
中央地区	花潤い事業の実施、スノーキャンドル事業の実施

※ 各まちづくり委員会の掲載順は、設立年月日の順による。

○ 宝来地区活動拠点センター管理運営事業

- ・ 利用者数 36,496 人
- ・ 利用形態 まちづくり委員会、各種サークル、各町内会、老人クラブ ほか

○ 東地区活動拠点センター管理運営事業

- ・ 利用者数 36,938 人
- ・ 利用形態 まちづくり委員会、各種サークル、各町内会、老人クラブ ほか

○ 富岡・はまなす地区活動拠点センター管理運営事業

- ・ 利用者数 33,186 人
- ・ 利用形態 まちづくり委員会、各種サークル、各町内会、老人クラブ ほか

○ 市民施設見学会の実施

- ・ 開催回数 1 回
- ・ 参加者数 20 人(一般公募)
- ・ 見学施設 国際フェリーターミナル、学校給食センター、太陽光発電施設、宗谷ふれあい公園、ごみ処分場、リサイクルセンター(プラ・トレイ中間処理施設)

○ 地域集会所等改修事業

- ・ 東浦集会所 集合煙突の崩壊復旧(災害)

### ③ 生涯にわたる学びの支援

〈169 ページ〉

○ 生涯学習計画の改定

- ・ 平成 21 年度から概ね 10 年間を計画期間とする第 2 次稚内市生涯学習計画を策定。
- ・ 審議会(委員 9 人)開催回数 2 回

○ 生涯学習の啓発

- ・ 生涯学習情報の提供(団体及びサークル、指導者情報の提供)  
各分野を掲載したリーフレット「学びと遊びの玉手箱」を発行し、各小中学校、町内会、関係施設、一般へ配布
- ・ 生涯学習推進アドバイザーの配置及び派遣  
アドバイザー 3 人を、社会教育センター、少年自然の家へ配置し、生涯学習相談の場を提供するほか、市民グループの要請に応じ派遣

○ 学習機会の拡充

- ・ 生涯学習フェスティバル「2009 まなびふれあいフェスタinわかかない」の開催
    - 「ハロウィーンイラスト・ぬりえギャラリー」
    - 「第52回稚内市小中音楽祭」(中止)
    - 「いきいき芸能発表会」
    - 「きて・みて・さわって文化センター」
    - 「シルバーいきいき作品展、市民サークル展示」
    - 「第8回SO-YA夢コール(合同合唱祭)」(協賛事業)
- 来場者数 延べ 3,347 人

④ 人権の尊重と平和な社会

〈93 ページ〉

○ 地域人権啓発活性化事業

- ・ 「人権の花」運動
  - 市内全小学校(15)に花の苗等を配布し、「命を大切にしたい」「みんなで協力し合う習慣」「相手を思いやる心」など、みんなで互いの人権を大切にするための心をはぐくむ
- ・ 市内2中学校にて人権教室及び作文コンテストを実施
- ・ パネル展の開催 (成人式会場)

(3) 健全で適正な自治体経営

① 広域行政の活用等

〈91 ページ〉

○ 定住自立圏構想の推進

複数の市町村が連携して、地域全体の活性化を図ることを目的とした定住自立圏の形成を目指し、本市では、その中心的な役割を担うため、平成22年3月2日に「中心市宣言」を行った。今後は、各周辺町村との「定住自立圏形成協定」の締結、協定によって形成される圏域の将来像や具体的な取組を記載した「定住自立圏形成共生ビジョン」策定を行い、自立のための経済基盤や地域の誇りを培い、全体として魅力あふれる地域(定住自立圏)を形成していく。

○ 北海道からの権限移譲の推進

「住民に身近な事務は、可能な限り住民に身近な市町村において処理することが望ましい」という基本的考えのもと、これまで北海道が行ってきた事務のうち、受入可能な事務の権限を市で引き受けた。平成21年度は31件の権限を受入し、事務・事業の移譲累計件数は、平成22年3月31日現在で553件となった。

## ② 経営的視点に立った行財政運営

〈91・95・97 ページ〉

### ○ 行政評価の実施

限られた資源を有効に活用し、事業の選択と集中を図るため、事務事業の見直し方法の一つとして、平成17年度(平成16年度実施事業)から行政評価を行っている。導入初年度は70事業、平成18年度は200事業の評価を行い、平成19年度から基本的に実施計画に登録されている全事業を対象に評価を行っており、平成21年度は、574事業の評価を行った。

また、平成22年度に実施する行政評価は、平成21年度を始期とする第4次総合計画に合わせて、仕組全体の見直しについて検討を行った。

### ○ 第三セクターの見直し

国の指針である第三セクター改革の流れを踏まえて、その役割等を再検討し、第三セクターの整理統合を行った。

### ○ 研修機関派遣研修 6人

派遣先(研修内容など)	派遣人数
北海道市町村職員研修センター	1人
法令実務(基礎)	(1人)
市町村職員中央研修所	2人
自治体経営改革Ⅰ 新たな経営手法	(1人)
住民税課税事務	(1人)
全国市町村国際文化研修所	1人
戦略的政策形成型研修(児童虐待への対応)	(1人)
日本経営協会	2人
NOMA 行政管理講座「滞納処分できない自治体債権(公的料金)回収実務講座」	(1人)
NOMA 行政管理講座「指定管理者制度の運用基礎実務講座」	(1人)

### ○ 他自治体派遣研修

- ・ 北海道派遣研修 1人

### ○ その他派遣研修 19人

- ・ 北海道開発局研修所(平成21年度防災業務研修) 1人
- ・ 平成21年度相談支援従事者研修(基礎研修:前期、後期) 1人
- ・ 全道公共工事審査・検査担当者研修会 1人
- ・ 石垣市・稚内市職員相互交流派遣研修 1人
- ・ おおたローカルアカデミー 1人
- ・ 学校教育先進都市視察研修(石垣市職員視察研修) 6人
- ・ ホームページ先進地視察研修 4人

- ・ 建設産業常任委員会行政視察 1人
- ・ 総務厚生常任委員会行政視察 1人
- ・ 民生文教常任委員会行政視察 1人
- ・ 議会運営委員会行政視察 1人

○ 一般研修 7回 140人

- ・ 階層別研修 90人
- ・ 専門研修 50人

○ 特別研修 2回 248人

- ・ 収納事務研修 53人
- ・ 救急講習 195人

○ システム開発・保守業務

- ・ 本市の基幹系システムの開発・保守業務は、基本的に職員が対応する自主開発保守方式により行ってきたが、制度改正等から生じる業務量の増加及び高度な専門技術を恒常的に習得する必要性などから、今後さらに人員増を図らなければならない状況が見込まれる。このことから、パッケージソフトウェアの導入による、よりコンパクトで効率的なシステム運用を図るため、プロポーザルによるシステム選定と導入作業を行ない、平成22年3月から本稼働した。